

【子供の言葉と発達】

小豆沢病院に来院されるお子さんは、
もちろん病気のお子さんがほとんどで
お母様の心配も「病気を治す事（子供の命を守る）」に注がれる
訳ですが
次に心配されてご相談になるのは、やはりお子さんの発育（成
長・発達）に
関する事が多いようです。



「成長」は主にお子さんの身体の成熟を見るもので定期的に行われる健診の計測などで
わかりやすいものですね。
それに比べて「発達」は、メジャーや体重計で測定できるものではないので心配される
方もいらっしゃるようです。
そこで、発達の目安の一つである「言葉」について少しみていきましょう。

生まれた時は泣く事しかできなかった赤ちゃんが、知脳と情緒の発達にしたがって
どんどん言葉の数が増えていきます。特に幼児期と言われる1～6歳までの間に
言葉の数は急激に増えていき、ほぼ4・5歳になった頃には基本的な単語や文法、
話し言葉は一応完成して、お兄ちゃんやお姉ちゃんを口げんかで黙らせてしまった…
なんて武勇伝をお持ちのお子様もいらっしゃるのではないのでしょうか。(笑)

では段階別におおまかに言葉の特徴をお話しますが、言葉の発達パターンは
環境やその子の健康状態、親子関係などにも大きく左右され個人差が大きいので
あくまで目安として見て下さいね。

新生児：生まれたばかりの赤ちゃんに最初に現れる情緒が「快」と「不快」で
この頃の赤ちゃんは「お腹減った」「眠い」「おむつ濡れて気持ちわるーい」などの
訴えをすべて泣き声だけで伝えようとします。

0歳：「快」「不快」が生後2カ月頃までに現れると、続いて「怒り」「恐れ」「不満」
「愛情」「喜び」などが生後1年までにみられ、表情も豊かになってきます。
時々見せてくれる笑顔が可愛くて、写真を何枚も何枚も撮ってしまったお父さん
もいらっしゃると思います(笑)



『クークー』『アーアー』などの喃語を話し始めるのもこの時期です。

この喃語というのは、お子さんの言葉の発達にはとても大切な意味を持っていて

完全に独立で呼吸ができるようになった事と発声器官や構音器官とその神経機能が

成熟してきた事を表しています。

この頃のお子さんは、いろんな声を出せるようになって、いろいろ試しながら楽しんでいるように見えますね。

1歳：簡単な単語『ママ』『パパ』など1語を話すようになります。

この頃のお子さんは『まんま』など1語文だけで“マンマちょうだい”という自分の要求を表そうとしますね。意味のある言葉を話し始める時期です。

2歳：『ママ来て』『これ、ちょうだい』など2語、またはそれ以上の言葉を話すようになり、言葉の数が急速に増えていきます。

自分の要求が通らない怒りなどを泣いたり、かんしゃくをおこして表現していたお子さんが、言葉で自己主張しだすのもこの時期ですね。

3歳：自分の欲求や意図、経験や周りの状況を簡単な文章：多語文で話せるようになります。自己主張も強くなり、物事や自分以外の人間の行動を理解したいという知的好奇心がどんどん大きくなり、親（大人）に質問する事が多くなってきますね。

4歳・5歳：ほぼ話し言葉が完成する時期です。前置詞や接続詞をたくみに使い

赤ちゃん言葉を使わないでお話できるようになります。

このように段階ごとに言葉の特徴はありますが、前述の通り言葉の発達パターンには

かなりの個人差があるんです。

お子さんは、自分の欲求意思を伝える為の手段のひとつとして言葉を覚え伝えるように生まれついています。でも話せるようになるには、体の各器官が健康である事は元よりコミュニケーションの欲求がある事が大切になってきます。

それにはお子さんの周りの環境、家族、特にお母様との関わりが大事なんですね。

「関わり」と言うとどんな関わり？と不安になってしまわれる方もいらっしゃると思いますが



難しく考えなくても大丈夫なんですよ。

お子さんは母親のお腹にいる時から、音に反応します。

やさしい母親の声も聞いて手を動かしたり足を動かしたりしてるんですね。

そして生まれてからは、泣き声を聞いた母親が泣き声や泣き方でいろいろ考え

「オムツが濡れてるのね？」とやさしく声をかけオムツを替えますね。

そうすると、泣く（不快）→オムツを替えてもらった（優しい声）→お尻きもちいい（快）

となり、欲求が満たされ、いい情緒のサイクルが生まれ、ここでもう親子の相互関係が

作られてる訳です。じっと見つめる我が子の目を見ながら微笑むだけでもいいんです。

お子さんは全身全霊で「ママ」を感じていますよ。

1語を話し始めると今度は、母親や周りの大人がたった1語だけで表情や声の調子や動作でお子さんの心を組み取ろうとします。「ブーブー」と話すだけで

「ああ、ブーブー走ってるね。」「ブーブーのおもちゃほしいの？」という風に

意味を持った言葉として温かいコミュニケーションがどんどん広がっていきます。

このように、周りの大人から愛され、見つめられ、話しかけられる事で温かく豊かな刺激を与えられ、お子さんは母子関係から、家族内の人間関係、お友達へと

今度は逆に言葉を駆使しながら社会性を広げていく事になります。

そんなお子さんやそれにずっと関わってらっしゃるお母様を私達は応援しています。

何かお子様の発達や言葉で心配になったり不安になったりした時は、健診時などにご相談下さい。お待ちしております。（*^_^*）

